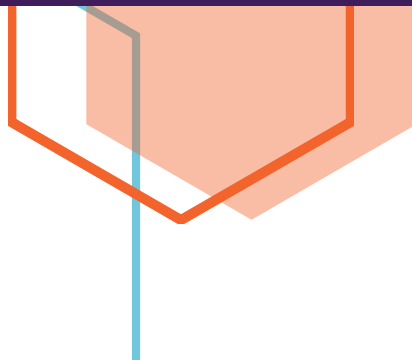




第2層協議体

ミニふれあい会議

第二小地区社会福祉協議会





第二小地区社会福祉協議会

目標：地域で元気に暮らすために

地区社協とケアホーム白井との協力で「中エリア」をモデルに始まった、買い物支援バス

理由：近くにスーパーがない、家族や誰かの協力が必要

資源：ケアホーム白井→デイサービスの車両と運転手を買い物支援の協力ができる。車両保険の対応も可能

場所：スーパータイヨーへ 買い物支援

買い物支援準備から試行の内容について

対象者へ周知（チラシなどを地区へ、ケアマネより対象者の申込み等）

対象者申請→包括支援センターへ→決定通知書

ボランティア（随行者：有償）

参加者と日程の調整→ケアホーム白井へ連絡

参加者の利用料徴収

開催時の行事保険の手続き

協力者	役割	経費	その他
ケアホーム白井	車両貸出	ガソリン代支給	車両保険負担
第二地区社協	随行者、参加者取りまとめ、調整	随行者へ有償ボランティア料	コーディネーターの役割

2019年3月試行開始

その後はコロナの影響により、買い物支援は中断となった。

理由1：ケアホームしろいのバスが出せない。

SCの動きや考え方、他の連携

ふれあい会議では、参加が少ない地域ですが、協力することがはっきりわかると、協力性のある地域という印象がある。

ケアホーム白井デイサービスの送迎の合間をぬってスーパータイヨーまでの送迎が可能



第2層協議体



コロナ禍が続き、2年間の活動の見直しや地域での協力者はいないか？など第二小学校区地区社協の会長さんと今後について話を進めた。

昨年、“ちよい困サポーター養成講座”を受講し、買い物も代行として可能となるため、ちよい困の活動をしてよいかと会長から意見があった。

まずは、地区社協推進員向けに勉強会を開きたいということで、勉強会の日程調整をすることになった。

令和4年7月19日(火)

第二地区社協推進員にちよい困講座立ち上げに向けた勉強会実施

先述の通り、買い物支援バスの運行を検討していたが、それに変わる総合的な生活支援として第二小地区社協がちよい困活動の立ち上げを検討中。



<勉強会の内容>

・社協 鈴木【支え合いの地域づくり 漫画の要約】

ポイント1 少子高齢化に伴う担い手不足 自助共助互助の必要性が高まる

コロナの影響により買い物支援が滞ってしまった地域だが、この地域の活動でまちづくり協議会の活動が進み始め、地区社協で生活支援の関心が高まり勉強会を行うことになった。

買い物支援に参加していた利用者は、今どうしているのか？



ご家族などの力を借りて、何とか買い物はできている様子であった。



ポイント2 地域の中で交流できる場があると住み慣れた地域で元気に過ごせると言われている

ポイント3 交流や通いの場から支え合いの地域づくりへと発展していく

・寄本氏【ちょっとした困り事サービスの現状と課題】

このサービスのスタートのきっかけは、リタイヤ後の自分のテーマが「共助」という理由から地域のふれあい会議に参加した。

ふれあい会議では、賛同者が増えスタート時メンバー4人で開始した。

サービスを開始した時は、市社協と市包括を窓口になんげずつ顧客を増やしていった。

エリアは西白井地区とし、同時期に立ち上がったグループと情報交換をした。

実施内容は、ごみ捨て、電球交換など軽作業から対応メニューを少しずつ増やしていった。

このサービスのもう一つの役割は、見守りを兼ねること。

そしてサービスの継続と今後の課題は、「継続的な活動を考慮すること、自治会単位

で2名以上のメンバーが継続的に活動できるような仕組み作りが理想と話す。

・社協 秋本【ちよい困活動の立ち上げの手順】（資料：市 支え合いの地域づくり手引き）

○支え合いの地域づくりの手引きに基づいて説明

組織やグループについては、地区社協という組織はできているので、①活動の範囲②対象者は誰なのか？③活動内容を定める3つのポイントを説明し、活動についての諸注意、市の助成金についてお知らせをした。

以前は、買い物支援を中エリアで活動していた団体ですので、仲間づくりや協力体制はできているので、まずは自分たちができることから始めてみるのが大切、そしてできないことは明確にし、断ることも大切な事ということをおアドバイスした。



地区社協推進員より

Q1：富塚地域は新住民との交流がまったくない。七次台・大山口学区のPTAに所属していることもあり、困り事の抽出の為に交流ができればよいが・・・

A1：まずは立ち上げて看板を掲げることで、新住民との交流もできてくるのではないかと。（社協）

Q2：ちよい困活動のメンバー補充はどのようにしているか。

A2：主催しているサロンで声かけているのが現状。男性は特に関心が薄い。この間はボラセンに依頼し個人ボランティアを派遣してもらった。理想としては自治会に2名ほど配置し依頼者の自治会外の方に対応してもらおう方法がよいと考えている。（寄本氏）

Q3：どこまでちよい困活動としてやっていけばよいのか線引きがわからない。

Q4：対話のなかから新たな相談やその人の困り事がでてくることが多いのでちよい困活動という前にコミュニケーションが大切なのかもしれない。（寄本氏）まずは看板を掲げてもらい、相談者の話を聞いてもらいながら進めていくことをおすすめする。（社協）

その他：買い物代行ならできそう2名 犬の散歩もできるのであればよい1名

次回

・地区社協として立ち上げを検討していくのであれば、適宜支援を行う。

R4.9/1 小林会長へ連絡しその後の様子について伺う。

→「その後、推進委員と会うことはなかったため、話はすすんでいない。

やはりこの地区で困り事を抱えている人がいるのかよくわからないという気持ちもある。」とのことであった。

中央包括から第二小地区の個別課題を吸い上げ、定例会などで適宜相談にのってもらうようにする。ちよい困活動で取り組むべき課題について具体的に知って頂く。





R4.10/5 生活支援コーディネーターに市環境課より、ゴミ出しに困っている住民からの問い合わせが入る。

内容

環境課より、ごみ集積所まで運べない住民がいるためボランティアを紹介してほしいとの相談があった。

対象者の甥っ子さんには週末に食事を届けているがゴミ集積所まで運ぶのは遠くて困難である。この地域には、ちょっとした困りごとのボランティア団体がないため、地区社協へ相談をした。

地域の情報によると、数年前までゴミ出しを手伝っていた民生委員がいたが、本人の希望で、断られた。そのため、敷地の内部はゴミでいっぱいになってしまうほど溢れていた。家の中の掃除もヘルパーには頼んでおらずケアマネすら家に入れない状況だった。

○解決に向けて

まずはコーディネーターが現地調査を行った。ゴミ集積所までは信号のない道路を越えて500mほどあった。

甥っ子さんとの会話からケアマネジャーがいることがわかり、ケアマネジャーとやりとりし、他者の介入の拒否があった理由や現在の様子などの事情を聞くことができた。

ケアマネジャー以前は他者の介入を拒んでいたが上記の事情や現在は他者による手伝いを本人が希望していることを民生委員へお伝えし、再度ゴミ出しの協力を依頼した。民生委員と地区社協推進員で話し合っただき、地区社協推進員が対応して下さることとなった。

R4.10/6 生活コーディネーターにトイレに手すりを付けてほしいという依頼がはいった。

SCの考え

地域の課題をきっかけに、ちょっとした困り事の活動が、始まれば良いなと思います。この地域には、まちづくり協議体が立ち上がり活動が始まっています。

今回の二つ目の課題（トイレの手すりの取り付け）の解決は、地区社協以外の住民による解決でもあり、地区社協とまちづくり協議体の一体の協力により、地区社協だけでは、解決できないところも補える。

機会があれば、そういった話し合いをしていきたい。



内容

一人暮らしの女性。ホームセンターにて自宅トイレ用の手すりを購入したが、取り付けができない。誰かに手伝ってもらえないか。



○解決に向けて

手すりを安全に取り付け、利用するためには専門的な知識や技術をお持ちの方でないと対応できない旨を地域の地区社協に相談した。対応可能であった区長さんが取り付けてくださることになる。

R5年1月19日 第二小学校区地区社協定例会

会長より、昨年ゴミ出しの依頼があったような地域の困り事について、今後地区社協としてどう捉えていくか？提案があった。

第二小学校区は、今年度まちづくり協議会も立ち上がり、福祉部門として地区社協が担うことを考えると、まちづくり協議体にも協力をいただきながら、ちょっとした困りごとの解決をしていく必要がある。

拠点もあり事務の受付も、事務員に対応してもらいながら、新年度に向け組織化していくこととしたいと提案があった。

他の推進委員からは、特に反対意見が無かったので、新年度に向け進める方針

SCの考え

地区によって解決が得意な（解決のために協力できる人が多い）困り事などがありそうなことがわかった。

第 2 層協議体

